

# 2年学年通信

令和元年度 石川県立金沢錦丘高等学校 12月号

## ☆ターニングポイントとなる2年冬休みを

2019年も残すところあとわずかとなりました。2学期期末試験も終わり、日頃の学習の成果が着実に出てきている人もいれば、思うような手ごたえがなく焦っている人もいます。この冬休みをターニングポイントにしましょう。普段より時間があるこの冬休みをうまく活用し、苦手科目の克服、得意科目の強化に努めましょう。その成功の秘訣は、成し遂げた先輩の実践例に学ぶことです。まず、4つのことを実践します。①目標の明確化、②計画の作成、③携帯電話やスマートフォンの封印(=学習環境から見えないところに置く)、④最低限の課題をやり遂げた後の自らの課題の設定・実行、この4つのことを実行したあなたは昨年よりはるかに自信に満ちたあなたに変わっています。

さらに、ゆっくりとした時間の中で、スマホでSNSの誰かの投稿を見ようしたり、ゲームアプリをタップして立ち上げようしたりする手を止めて、自分の将来の進路を見つめ直して自己の内面に深く潜ってみてはどうでしょう。自分が何に興味があるのか、いつ熱中しているのか、どこで学び・働きたいのか、なぜ自分はそう思うのか、どうすれば進路の実現ができるのか、など考えてみるのも良いターニングポイントになると思います。

～12月の予定～

日	月	火	水	木	金	土
1	2 「人権週間」	3 課題研究 (発表準備)	4	5	6	7 GTEC
8	9	10 課題研究 中間発表	11	12	13	14 CU
15	16	17 課題研究 (発表振り返り)	18	19	20	21
22	23 授業1～3限 終業式 保護者懇談会①	24 保護者懇談会②	25 保護者懇談会③	26 保護者懇談会④	27	28
29 学校閉鎖 生徒登校禁止	30	31	1元旦 	2	3	4
5	6	7 始業式 課題式検①	8 課題式検②	9	10	11

## ☆体調の自己管理

さて、来る2020年はみなさんにとって、勝負の年です。「日常生活の積み重ね」が勝負を左右します。ここ数週間は気温の寒暖差が激しく、体調不良による欠席や保健室利用がたくさんありました。気温の変化により体調を崩さないよう、まずは自己管理をしっかり行っていきましょう。よく言われるのは①バランスのよい食事による栄養補給、②睡眠時間の確保、③手洗い・うがい・換気の徹底ですが、自分なりの体調管理法を考えてみましょう。例えば、しっかりとお風呂につかって体を温める、睡眠時の乾燥対策に加湿器をつけたり暖房のタイマーを設定したりする、お気に入りのコートやマスクで気分を上げつつ防寒対策する、ストレッチで体をほぐしながら学習に励む、可愛いペットやぬいぐるみの温もりを感じて寝ることなどが浮かんできましたか。体調不良では、体力の低下ばかりではなく、集中力も減少してしまいます。さらに思考がマイナスになるので、人間関係を面倒に感じたり、イライラで喧嘩したりして、友達との関係の悪化につながります。起床時間・学習開始時間・就寝時間の3点固定をもう一度確認し、目標達成に向けて自分の力を最大限発揮できるよう体調管理について考え始めましょう。

## ☆「課題研究」で育まれる能力

11月の学年通信でも課題研究について触れましたが、11月12日(火)に実施されたフィールドワークでは、写真のように役所や大学の教授、関係する企業・お店の方など合計50カ所以上のところに自分たちでアポイントを取って訪問しました。終わった後、生徒からは「訪問のときは緊張したけど、相手がひとつの質問に10以上返してくれて驚いた」、「アポイントを取るの大変だったけど、視野が広がる良い機会になって行ってよかった」、「むしろ相手が高校生の活動にとっても興味を持ってくれていて優しかった」、という声を聞きました。まさしくこんな声が聞けるのを待っていました。課題研究で感じてほしいことを感じ始めてくれた瞬間でした。

課題研究では、「主体的な学び」をめざしています。自分が興味のあることを深めたり、自分たちでフィールドワーク先にアポイントを取ったり、フィールドワークで自分からインタビューしたり、自分たちで話し合って研究をまとめたり、自分たちで工夫して発表をしたり、この取り組みを「自分ごと」としてチャレンジして取り組む姿勢を身に付けてほしいと考えています。一步チャレンジをすることで、その楽しさを感じることができるはずです。フィールドワークに行った後の生徒の言葉には、楽しさを感じる瞬間を垣間見たように思います。

また、訪問先の方々の優しさから、高校の教育が社会に非常に興味を持たれていることを感じます。だからこそ、高校も社会に開かれた場へと変わろうとしています。その中で今回のようなフィールドワークで、生徒が社会とふれてコミュニケーション能力をより実践的に伸ばしてくれていることを期待しています。



12月10日(火)には大学生をゲストに招いて中間発表会を実施します。彼ら彼女らの大学での探究的学びを聞くとともに、自分たちの発表に対してアドバイスをもらい、研究をより良いものに変化させることができます。この機会を生かし「変化を楽しみながらチャンスととらえ進んでいける人」になってほしいのです。そして、課題研究を進路実現に向けた新しいチャンスと考えてほしいと思います。